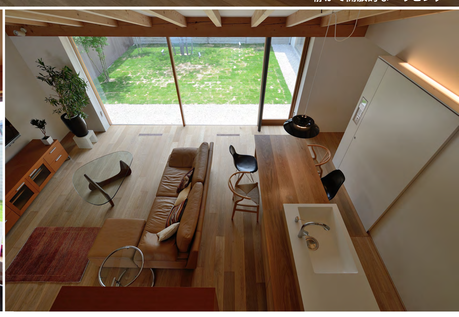
静かで開放的な " リビング "



都市の静寂　音羽町の家

北庭に、南庭に、そして空へと抜けていく開放性

立地

この住宅が建っている富山市音羽町、そこは富山市の中心部にほど近い街中ではあるけれど高層ビルが林立する地区というほどではなく、落ち着いた住宅地区に位置する住宅です。

内に向かう住まい意識

最近の住まいが近隣とのコミュニケーションをあえて無くすようになってから、つまりどの家にも鍵をかけて常に戸締りをするようになってからずいぶんと久しくなりました。特に、都市部では例外なくその傾向が見られ、不特定多数に対する不信の眼からプライバシーを守るための家のしつらえは結果として近隣社会に対して閉鎖的にならざるを得なくなっています。 結果として、どの家も関心がより内部に向かい、住まい手の意識はそれを正当化しているのです。

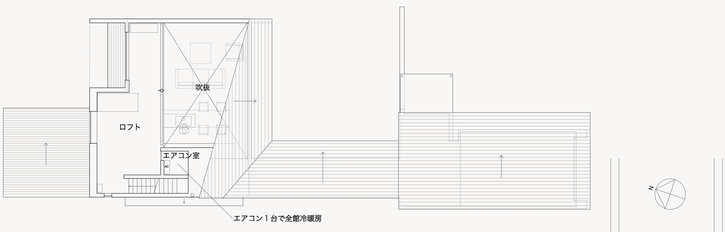
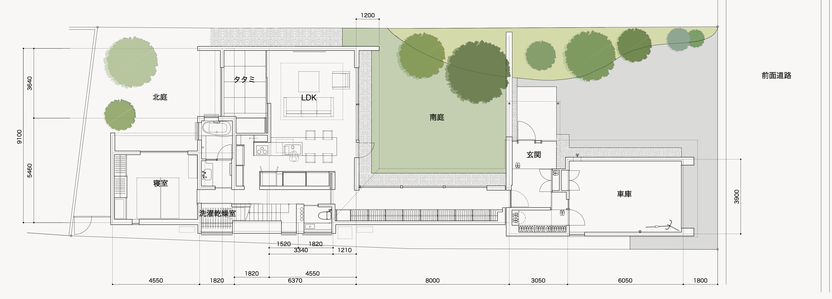
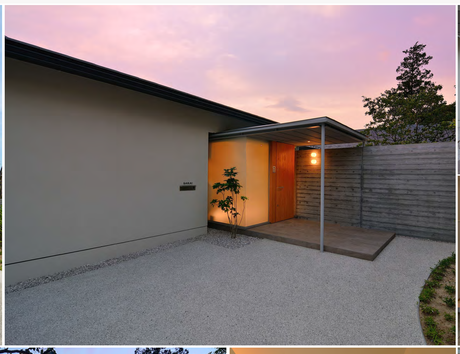
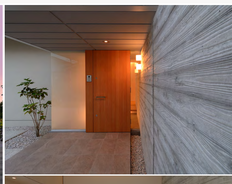
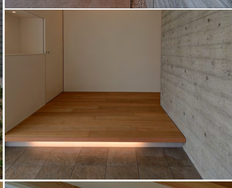
敷地にリードされる幸福

音羽町の家の敷地は奥に深い細長い敷地です。幸いにして敷地の幅は狭くもなくちょうどいい。このちょうどいい幅を上手く使ったアイデアを考えるのが敷地の特徴を引き出すことになりそうでした。今回の住宅の要素はたった三つです。駐車スペース、 外部空間としての庭、そして生活の中心になる家族の日常生活空間です。三つの要素を細長い敷地に割り振ってみると、これがちょうどいい形に収まりました。そうしてできた家が音羽町の家です。それぞれが機能的に繋がりながら上手く配置ができました。 いつもは敷地のマイナス要素を補うアイデアを考えながら計画を構築することが多いのですが、今回は敷地にリードされて素直にプランが出来上がり、めずらしい体験でした。

自己が満たされる静寂さ

今回「都市」という言葉を人が活発に行き来するエネルギーに満ちあふれている対象として捉え、その都市的エネルギーから自己を守る場、自己を生かす場としての住まいを都市への反語とした「静寂な場」として捉えてみました。現代の都市空間の中でプライバシーを守るということは最も望まれることですが、だからといってそのプライバシーを守るために閉鎖的で開放感のない内部指向の強い住まいとなってしまっては寂しい。プライバシーは守りつつも開放感が溢れて内外の空間構成に心が癒される豊かで、かつ落ち着いた豊穣の住空間を作りたいと思います。つまり様々なエネルギーが満ちあふれた都市という環境の中であっても居心地がよく「自己が満たされる静寂」という空間を持つ住宅を作りたいと考えています。音羽町の家ではそんな空間ができ上がりました。

2階平面図



配置図・1階平面図